

新理事にご選出いただき

佐賀大学医学部病因病態科学講座 臨床病態病理学分野

青木 茂久

この度は、伝統ある日本創傷治癒学会の理事にご選出いただき、誠に光栄に存じます。

私と日本創傷治癒学会との出会いは、東邦大学の赤坂喜清教授から本学会での発表のお誘いが当教室にあり、当時、皮膚再生研究を行っていた私に学会発表が命じられたことに始まります。初めての日本創傷治癒学会では、基礎から実臨床へと展開する学術内容に驚き興奮したことを鮮明に覚えております。

私は九州大学理学部在学中に培養皮膚に興味を持ち、脂肪細胞および皮膚培養で高名な佐賀医科大学の杉原 甫教授の門を叩き、同教室で学位を修得しました。その後、農研機構の竹澤俊明先生が発明された新素材「コラーゲンビトリゲル」に出会い、培養皮膚シートの確立に挑戦しました。その培養皮膚シートの創部に対する治療効果を認めたのですが、移植細胞は創部に残存しない事が判明し、大層落胆しました。しかし、偶然診断していた皮膚検体から、「皮膚再生に細胞移植は必須なのか？」という疑問を抱き、絆創膏型人工皮膚の開発に成功し、同製品の抗線維化、瘢痕抑制効果を証明しました。

末筆となりましたが、私の経験を本学会のお役に立てることができれば幸いに存じます。今後ともご指導、ご鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。

新理事就任にあたって

兵庫医科大学 形成外科

西本 聡

この度、理事を拝命いたしました。西本 聡と申します。形成外科医です。

私が本学会の存在を知ったのは2000年頃、アメリカに留学中のことでした。細胞培養や組織工学に興味があり、ピッツバーグのPatricia Hebdaの研究室に配属され、アメリカのWound Healing Society (WHS)に参加しました。その時に日本人だとわかると何人もの方から「日本には世界で一番歴史のあるwound healing societyがあるのを知っているか」と聞かれました。国際的連携を進めてゆこうとしていたころだと思います。帰朝後、本学会に参加させていただいております。

吉田昌理事長も先のニューズレターで書かれていましたが、本学会の特徴は何といても多岐にわたる専門分野の方々と議論しあえることです。専門を持つとその専門の“井戸”に閉じこもり視野が狭くなりがちです。この学会は創傷治癒を理解する上で基礎研究が大事であることを再認識させてくれます。創傷の治療は多職種のチームワークが重要であることも教えてくれます。



NEWS
LETTER

日本創傷治癒学会
2022.05
No.129

●日本創傷治癒学会事務局

〒160-8582

東京都新宿区信濃町35

慶應義塾大学

医学部形成外科学教室内

tel.03-3351-4774

fax.03-3352-1054

e-mail : info@jswh.com

URL : <https://www.jswh.com>

世界で最も由緒のある日本創傷治癒学会の役員の一角を担うにはいささか力不足の感がありますが、伝統を汚さぬよう与えられた責務を果たしてゆく所存です。

新理事就任の御挨拶

国際医療福祉大学医学部形成外科学
松崎 恭一

このたび日本創傷治癒学会理事に就任いたすことになりました。はなはだ微力ではございますが何卒よろしくお願ひ申し上げます。

振り返りますと本学会との出会いは、1998年12月に開催された大分での第28回創傷治癒研究会に始まります。まだ学会組織ではなく、研究会と呼ばれていた頃です。その前年まで留学していた米国での研究テーマ「表皮角化幹細胞の転写因子」に関連した演題を発表しました。研究会ならではの顔の見える距離でのディスカッションは、とても迫力があり大変勉強になりました。そしてその夜は、余韻に浸りながら関サバと麦焼酎に舌鼓を打ったことが懐かしく思い出されます。

時は前後しますが、その年の8月、本学会と関連深い European Tissue Repair Society の第8回 Annual Meeting に参加。学会終了後、学会長の Finn Gottrup 先生の創傷治療センターを訪ねました。そのご縁もあって、熊谷憲夫先生が2005年に会長を務められた第35回の学術集会では、海外招待講演の演者としてお招きしました。ご講演の翌日、ご夫妻と過ごした箱根の旅館で「ヨーロッパの創傷治癒学会より歴史がある本学会は凄い!」と仰られたことを今も覚えています。このような伝統ある本学会に携われますことを大変光栄に存じております。

WRRに会員の論文が掲載されました

会員の論文が Wound Repair and Regeneration の Volume30 Issue No.2 に掲載されました。論文名、会員の著者は下記の通りです。

投稿規程に関しましては、Wiley Online Library の本ジャーナルホームページの機関誌概要下にある濃緑色のナビゲーションバーより、<CONTRIBUTE> ⇒ <Author Guidelines> と進んでいただくか、以下のURLへアクセスして入手してください。

<https://onlinelibrary.wiley.com/page/journal/1524475x/homepage/forauthors.html>

なお、投稿方法は、ホームページからのオンライン投稿（要ログイン）となっております。

“Increased temperature at the healed area detected by thermography predicts recurrent pressure ulcers”, (*Wound Repair and Regeneration* , 30:2, P.190 – 197)

大橋 史弥 先生 (石川県立看護大学 成人看護学講座)
大貝 和裕 先生 (金沢大学医薬保健研究域 附属AIホスピタル・マクロシグナルダイナミクス研究開発センター)
浦井 珠恵 先生 (富山県立大学 看護学部基礎看護学講座)
須釜 淳子 先生 (藤田医科大学保健衛生学部 社会実装看護創成研究センター)
大江 真琴 先生 (金沢大学 医薬保健研究域保健学系)

漢方は、自然から。

漢方は、たくさんの人の手と想いを経て生まれます。

長い年月をかけて、樹木が豊かな山を育み、その山で水が蓄えられる。

山で磨かれた水が、生薬をつくるための畑に注がれ、
生産農家のみなさんによって大切に育てられる。

人が本来持っている自然治癒力を高め、生きる力を引き出すことを目的とした
漢方にとって、「自然」はいのちを強くする力そのものです。

その力をそこなうことなく、すべての人が受け取れる形にして届けたい。
そして健康に役立ててほしい。

100年以上、自然と向き合いつづけてきた私たちツムラの願いです。

自然と健康を科学する。漢方のツムラです。



www.tsumura.co.jp

資料請求・お問い合わせは、お客様相談窓口まで。
【医療関係者の皆様】0120-329-970 【患者様・一般のお客様】0120-329-930
受付時間 9:00～17:30（土・日・祝日は除く）

(2019年5月制作) RSCAB01-D